

「ダイゼインリッチ・アグリコン・イソフラボン (AglyMax®) 投与が有効と考えられた不妊・不育症例の経験」と題した臨床応用研究例が、第124回東海産科婦人科学会(平成21年2月15日、名古屋)において、医学博士 澤田富夫氏(さわだウィメンズクリニック・名古屋不妊センター 院長)により発表された。

この臨床例は、弊社のダイゼインリッチ・アグリコン・イソフラボンサプリメント(Dr. AglyMax®)を、卵管因子・男性因子・原因不明因子・反復流産の不妊因子をもつ、長期不妊、原因不明不妊の患者に応用した症例。

成績は、ダイゼインリッチ・アグリコン・イソフラボン服用35例中、12例に妊娠が確認され、妊娠方法は、自然妊娠5例、COH1例、AIH3例、IVF/ICSI3例であった。これらの結果から、ダイゼインリッチ・アグリコン・イソフラボンの服用は、不妊・不育治療において試みるべき補助療法の一つと考えると示唆された。

■ 医学博士 澤田富夫 氏

<プロフィール>

慶應義塾大学医学部卒業

慶應義塾大学医学部産婦人科学教室入局

国立埼玉病院 産婦人科 医長

藤田保健衛生大学 産婦人科 講師

藤田保健衛生大学 産婦人科 助教授

さわだウィメンズクリニック院長

<資格>

慶應義塾大学医学部 非常勤講師(産婦人科学)

藤田保健衛生大学医学部 客員教授(産婦人科学)

母体保護法指定医

医学博士 (慶應義塾大学)

日本産科婦人科学会認定医

日本東洋医学会専門医

日本医師会認定産業医

日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医

日本生殖医学会生殖医療指導医

<学会・役員>

日本産科婦人科学会(会員)、日本生殖医学会(評議員)、日本受精着床学会(評議員)、

日本内分泌学会(会員)、産婦人科内視鏡学会(評議員)、日本生殖外科学会(理事・幹

事)、日本東洋医学会(会員)、遺伝カウンセリング学会(会員)

ニチモウバイオティックス株式会社

<http://www.nichimobiotics.co.jp/>

〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-20 (天王洲郵船ビル)

連絡先: 第二営業部/重廣 Tel: 03-3458-4542 Fax: 03-3458-4330

第124回 東海産科婦人科学会（平成21年2月15日、於；名古屋）  
一般講演 第5群 No. 27 演題抄録より抜粋

<演題>

ダイゼインリッチ・アグリコン・イソフラボン投与が有効と考えられた不妊・不育症例の経験

さわだウィメンズクリニック、いくたウィメンズクリニック\*  
澤田富夫、生田克夫\*

【目的】ダイゼインリッチ・アグリコン・イソフラボン (AglyMax®) はアグリコン型イソフラボンとして抽出・濃縮した発酵大豆胚芽抽出物である。本剤は抗酸化力増加とフリーラジカルの減少作用による細胞効果、特に血流、血管系の改善作用があると考えられている。またエストロゲン反応遺伝子発現を介し、妊娠・着床に必要な不可欠なLIF、TGF- $\beta$  及びグリコデリンタンパク質の発現亢進作用をもつ可能性が示唆されている。本剤が不妊・不育症の症例に有効か否かを検討した。

【方法】不妊・不育により来院した患者35例にイソフラボンを1日1錠服用させ最長3ヶ月続けた。これらの患者は通常の不妊・不育治療をまず行うも妊娠に至らず、補助的な療法としてイソフラボンの服用を開始した。その間に妊娠が成立した症例につき検討を加えどのような症例に本サプリメントが有効か推測した。

【成績】①35例に服用させ12例の妊娠を確認した。それらの平均年齢34.4才 (29-39)、平均不妊期間26.5ヶ月 (6-60)、不妊因子は卵管因子1例・男性因子2例・原因不明因子5例・反復流産4例であった。②妊娠の方法は自然妊娠5例、COH 1例、AIH 3例、IVF/ICSI 3例であった。③イソフラボンの投与期間は1ヶ月7例、2ヶ月4例、3ヶ月1例と短期間であった。④妊娠12例のうち7例は何らかの原因でアスピリン投与ができずイソフラボンに切り替えた症例であった。

【結論】長期不妊、原因不明不妊等においては有効な手だてが無く治療に苦慮する場合も多い。このような場合には漢方療法、鍼灸療法などを補助療法として行うことも多い。また反復流産の患者にはアスピリンを投与することも多いが、アスピリンアレルギーの場合には投与不可である。これらの症例にはダイゼインリッチ・アグリコン・イソフラボン服用は試みるべき補助療法の一つと考えられた。